

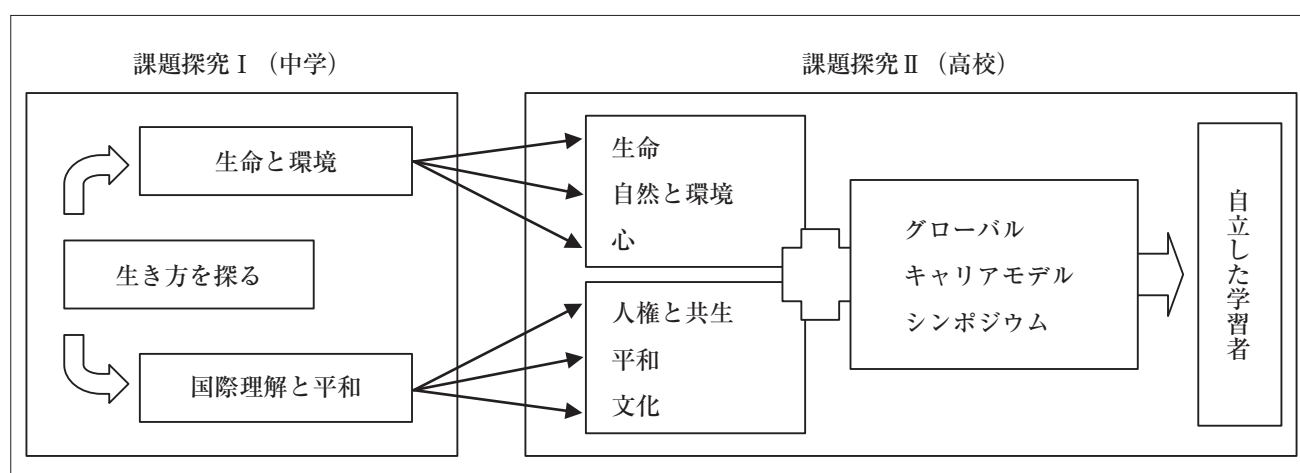
グローバルキャリアシンポジウム

三小田 博 昭

(1) 目的

本校には在学中に NPOプロジェクトを実行するなど、行動力のある中高生もいるが、多くは学校での学びが「知識」に留まり、行動にまで至っていない。これは、生徒が行動に移す目標としてのグローバルキャリアモデルが身近にいないため、自分の夢を持つことや学びの先

にある自分が想像できないことが原因であると考えている。そのために、企業・公的機関・国際機関の関係者等、グローバルキャリアモデルのリレーシンポジウムを継続的・効果的に取り入れることで、課題研究が将来のキャリアの形成に繋がり、探究的な活動の質が深まると考え、グローバルキャリアシンポジウムを実施する。



(2) 実施計画

平成 29年度は以下のようにグローバルキャリアモデルシンポジウムを実施した

日にち	講師 (敬称略)	所属	備考
5月30日(火)	益川敏英	名古屋大学 素粒子宇宙起源 研究機構長	ノーベル 物理学賞
6月8日(木)	濱口道成	日本ユネスコ 国内委員会	副会長
2月14日(水)	イステイ チョア イア =ブドゥラ	駐日	EU大使

H29年度のグローバルキャリアモデルシンポジウムは、さくらサイエンス事業（JST主催名古屋大学共催）で益川敏英（ノーベル物理学賞受賞者）先生と日本ユネスコ国内委員会副会長（前名古屋大学総長）、EU駐日大使をお招きして実施した。1回目の益川敏英先生の時には、名古屋大学理学研究科長である杉山直教授がモデレーターとなり益川先生と高校生との橋渡しを行った。

シンポジウム司会は本校副校長が行いシンポジウムの進行にあたった。また今回の、グローバルキャリアモデルシンポジウムは、本校の生徒だけではなく、多くの海外からの高校生も参加した。シンポジウムのおと、本校生徒120名と留学生90名弱とが混合グループを作り昼食交流会を行った。昼食を一緒に食べながら、双方の学校生活の様子や益川先生のお話の内容について意見交換をした。第1回・第2回・第3回ともにスケジュールは以下のようなものである。

第1回 5月30日(火)

講師：益川敏英先生

参加生徒：本校高校1年120名

留学生88名（インド71名 ネパール12名 ブータン5名）

引率教員18名

(本校生徒の声)

・高校生の頃の自分に対して何と声をかけたいかという質問に対して、「時間の流れは速いよ。まずは歩き出す

ことが大切だ」と益川教授が答えていたのが特に印象的だった。時間の流れが早いというのは重々感じていたが、だからといってあたふたするのではなく、物事の第一歩を踏み出すことで道が広がるのだと感じた。

・「憧れのターゲットを是非みつけてもらいたい」講演で益川教授がおっしゃっていたこの言葉が一番心に残りました。憧れのターゲット、つまり目標を見つけられれば、それに向かって懸命に努力できるのだと学びました。自分も早く目標を見つけようと思います。

・賢い人とは何か、その質問に対する益川先生の答えが特に印象に残った。私は研究する・学ぶことをやめない人かなと思っていた。だが益川先生の「自分の考えの中の間違いを自分で見つけられる人」という言葉にとっても納得した。自分の考えを自分で正すことは難しいがとても大切な事なのだということを学んだ。

・参考になったのは、本校生徒が、「研究テーマや新しいことを見つける上で心得ておかなければならないことは何か」と質問した際の益川先生の答えです。「何故今解けないのか分析し、それを忘れないこと。勉強して知識を増やしたり、設備など解ける条件が揃うまでじっくり待つ」この言葉は今まで出来無さそうだな、と思ったらずぐに手を止め違うことに移っていた私からしたら目からウロコでした。しっかり分析して待つ、この事を頭において自分のやりたいことをやって行きたいと考えました。

(さくらサイエンスプランホームページ

https://ssp.jst.go.jp/report2017/t_vol022.htmlより)

講演は理学部理学研究科長の杉山直教授との対談形式で進められました。講演には名古屋大学附属高校の生徒125人も参加し、ステージには益川先生、杉山先生、インド・ネパール・ブータンの高校生各1人、また、名古屋大学附属高校の生徒も1人登壇しました。

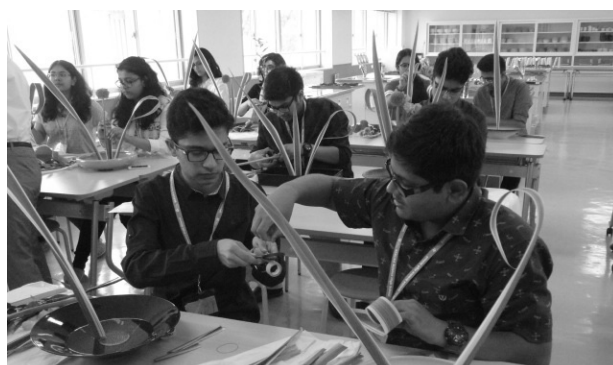
ネパールの生徒からの「ノーベル賞は誰に捧げたいですか」という質問に対して、益川先生は、師事された坂田昌一先生の名前を挙げられました。この日、講演が開催されたホールも、坂田先生の名前が冠されていますが、益川先生がノーベル賞受賞の際のインタビューで「坂田先生がノーベル賞をもらえなかったのは、弟子である私たちがだらしなかったからだ」と述べられたことも有名な話です。益川先生と坂田先生の深い師弟関係についても、アジアの高校生たちにとって印象的に響いた様子でした。最後に益川先生と記念撮影をしたあと、高校生たちは会場を後にしました。



益川先生に質問する本校生徒



昼食交流会の様子



日本文化体験 (生け花)

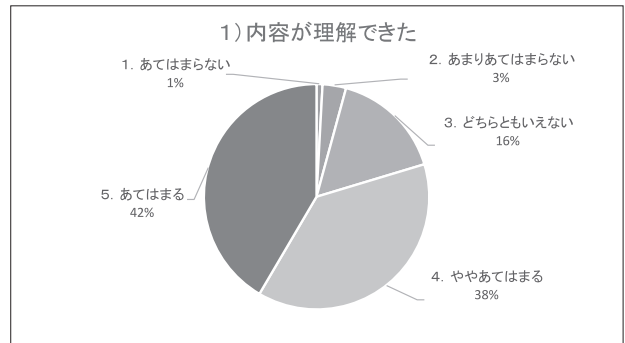
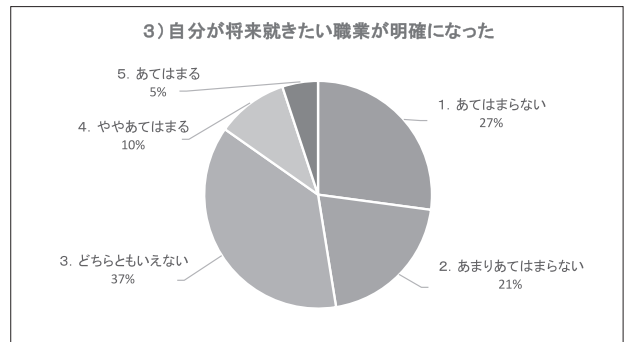
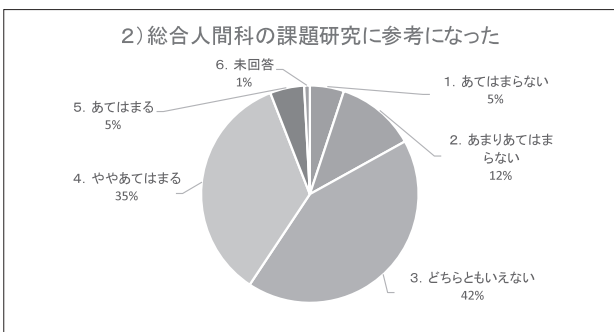
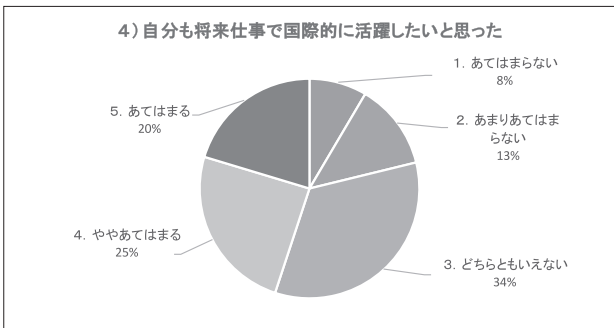


日本文化体験（琴）



日本文化体験（お茶）

生徒振り返りアンケートの結果



日頃、聞く機会があまりない、ノーベル賞受賞者・益川敏英先生のお話を直接聞くことができ、多くの生徒は、今後自分たちが実践するSGH課題研究の参考になったとアンケートには答えている。また、グローバルキャリアモデルシンポジウムの目的の一つである、「課題研究が将来のキャリアの形成に繋がる」ことに対しても、多くの生徒が、「自分も将来仕事で国際的に活躍したいと思った」と回答をしている。「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答をした生徒もいるが、これらの生徒は、すでに「自分がSGH課題研究でやりたいことが、すでに決まっている」ため、そのような回答をしたのであると考えられる。

第2回 6月8日（木）

講師：濱口道成先生

参加生徒：本校高校1年120名

(本校生徒の声)

- ・これからの経済のことや、仕事の移り変わりについての話がすごく面白かったです。自分は理系が得意でも経済学部の方系に入りたいと悩んでいたのですが、今回の話を聞いて、先生のように文理に囚われず、色々なことに取り組みたいと思えました。また、理系への興味もすごく湧きました。もう1度将来の仕事も併せて考えてみようと思います。
- ・今日の講演は、自分達の将来についてたくさんを知ることが出来、これからの職業選択に役立つ内容でした。少子高齢化や人口増加については、他人事ではなくなってきたと改めて思いました。私は未だ将

来の夢がないので、これから大きく変わる職業についても調べないといけないなと思いました。

- ・「あなたは将来幸せになると感じますか？」という問いに対して、僕は漠然と幸せになるんじゃないかと思っていたが、人口の減少はマイナスだけではなく、自分達にチャンスがたくさんあるんだとプラスに捉えることが大切だと思った。
- ・どんどん技術や産業が発展していく中で大人になって生きていかなければならない世代で、もう少ししたらAIが人間に代わって仕事も出来るようになってくる中、私達はどんな仕事をしていけるのか、深く考えさせられるようなお話だと思いました。

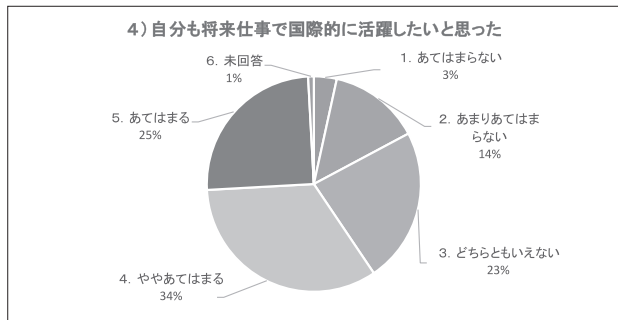
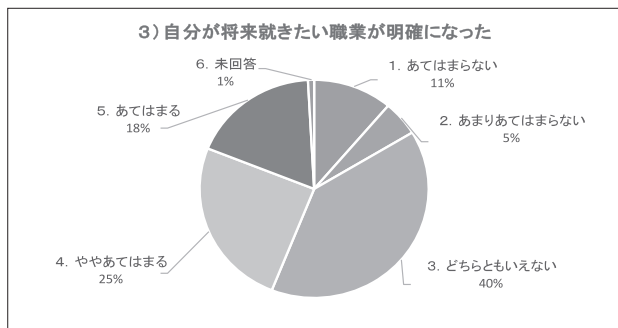
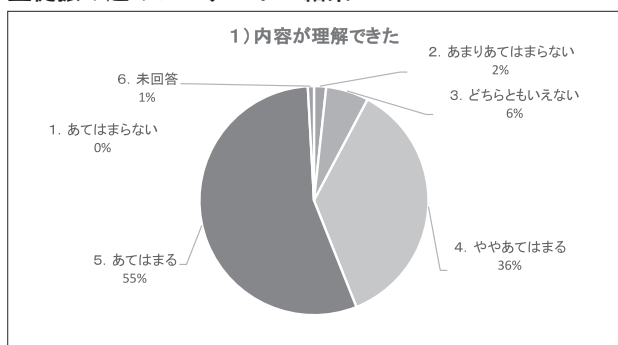


公演後も質問に詰め寄る生徒



講演中の濱口先生

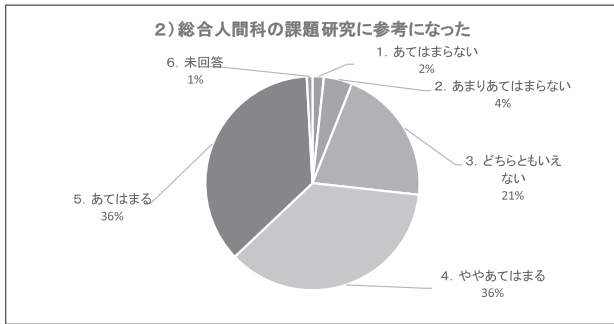
生徒振り返りアンケートの結果



お話を聞く生徒



質問をする生徒



講演の内容が、身近な問題に多く関係したため、ほとんどの生徒が講演内容を理解することができた。また、具体的な内容を織り交ぜながらのお話であったため、多くの生徒が、自分の課題研究の内容と結びつけて講演をきくことができた。第1回の時とは異なり、少人数で行なわれたため、講演者である濱口先生が、聞き手である本校生徒の席まで、話しをしながら頻繁来ていただいたため、インタラクションに富んだ双方向型のグローバルキャリアモデルシンポジウムとなった。益川先生の時と同じく、「自分も将来仕事で国際的に活躍したいと思った」と回答をした生徒が多くいたことは、「課題研究が将来のキャリアの形成に繋がる」大きなきっかけとなったと言える。

第3回2月14日（水）

講師：イステイチャオエア=ブドゥラEU大使

参加生徒：本校中学生・高校生24名

希望者会場：アジアコミュニティーフォーラム（名古屋大学アジア法交流館2階）

（参加した動機）

- ・ EUの現状について興味があったことと、EUの大使から直接お話が聞けるのはとても貴重だと思ったから。
- ・ 国際分野に関心があり、EU駐日大使の方の貴重なお話が聞けるということで申し込みました。EUはイギリスの離脱などで世界的に注目されているのに何も知識がなかったので少しでも知ろうと参加しました。
- ・ 自分は将来、外国と関わる仕事に就きたいので、世界の「今」を知り、視野を広げるため。また、EUに関わる方から直接お話を聞くチャンスは滅多にないので。貴重な経験ができると思ったから。（本校生徒の声）
- ・ 「多様性の中の統合」。共通の通貨ユーロの流通や、ビザ、パスポートなしでも自由に国境を越えられる制度ができて、ヨーロッパが一体化していく中でも国の文化をお互いに認め合うことは、どんな地域にも共通して必要であると思う。この制度のような、経済・文化面の両面でお互いに得ができる仕組みは世界中でまねをするべきであると思う。
- ・ Migrationの問題が印象に残りました。日本でも大き

く報道される難民問題でとても興味深い内容でした。特に難民問題に対するEUの考え方や姿勢、意見や最新の現状がわかって貴重でした。日本は難民に対して何をしているのかははっきりせず、よく分らないですが、EUは様々な形、方法で難民に関わっているということがわかりました。

- ・ 日本とEUの関わりでSPAの政治的なこ、で気候変動、医薬、高等教育など身近なことから、あまり身近ではないことまでさまざまな内容であったので今後どのようになっていくのかとても楽しみだと思いました。EUはLiving without border ということをしているが、テロが最近よく起こっている。そのことについて今後どうしていくべきなのかに興味があった。
- ・ 「明日、何かの専門家になる」という言葉に感銘を受けた。一日ごとに何か一つのことについて詳しくなるということが続けて行くと、それが積み重なって広い分野での「知識人」になれるんだな、と思った。私もいろんなことについて深く学んで、あらゆる分野の知識人になりたいと思った。（文責 三小田博昭）

